



ロープを使い魚気分で流水の泡を体験する小学生

銚子川の魅力満喫

学問ふちで川ガキ養成講座

紀北町の銚子川上流、学問ふちで十八日午後、「内山りゅうさ

んと行く、銚子川フルーと神秘の泡世界」と題した川ガキ養成講座があった。

きはくふるさと体験塾とNPO法人ふるさと企画舎の主催で、今年で三回目。水中写真家・内山りゅうさんの指導で川遊びを楽しむもので、町内と尾鷲

学問ふちは、木津にある魚飛橋の上流約二・七キロ。つり橋のたもとにあり、銚子川の透

や水中メガネ、シュノーケルを付けた参加者たちは、ふちをひと泳ぎしたあと、メーンの泡を体験。瀬から流れる込む水が作る泡と二

度度、何度か泡の中に飛び込み、若鮎の異名をとった一宮市立今伊勢小学校三年生の河野彩花ちゃんは「最初は少し怖かったけど、とても面白かった。前が見えないくらい小さ

んの小さな泡で、おでこやほっぺに当たるのが気持ちよかったな」と興奮気味に話していた。

このあと、足からふちに飛び込む「ラムネ」を楽しんだり、内山さんが捕まえたハゼの仲間や天然ワナギを観察しながら川の生き物について学ぶなど、日本でトップクラスのきれいな銚子川の魅力を満喫。彩花ちゃんの父親の健一さんは「かつては岐阜の板取へ出かけていたが、五、六

年前に銚子川というきれいな川があることを知り、三年前からキャンプイン海山に宿泊して楽しんでいる。キャンプ場の前で楽しんだり、魚飛溪にも出かけたが、ここ（学問ふち）は水のきれいや透明度が全然違う。以前ここに来ようとしたが、車の底をすりそう

2013年8月20日
紀勢新聞